



廿日市市教委だより

令和4年
12月16日
第8号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

あっという間に年内最後のひと月となりました。この機会に1年間を振り返ってみませんか。楽しかったこと、苦しかったこと、様々な思い出が浮かび上がってくるでしょう。「終わりよければすべて良し」という言葉がありますが、12月を気持ちよく終えることは、この1年を良い年であったと締めくくることにつながります。行く年を振り返り、来る年の目標を立てることで、有意義な1年を迎えられます。

今年1年、大変お世話になりました。ありがとうございました。



「世界のさまざまな地域」について考える～アフリカ州～

12月1日（木）、廿日市中学校1年2組で、ガーナ出身のウィンフレッドさんを講師として「児童労働の解決に向けて考える」社会科の授業が行われました。自分達と同じ年頃の子供が働いているのはなぜか、どうすれば解決できるのか、生徒が考えたことをウィンフレッドさんに聞いてもらい、ガーナの現状について話を聞きました。



～ウィンフレッドさんのお話から～

みんながこのように世界について考えることは、視野が広がってとてもよい。ガーナで今一番大切なのは教育。子ども達が学校に行くこと。教育によって、未来が開ける。同じ国なのに、整備された道とそうではない道、道端でココナッツを売っている人達…こうした状況を改善していかなければいけない。

本単元の授業づくりについて ～社会科担当 大丸先生から～

これからの時代を担っていく子ども達が、世界の諸地域について学ぶことで、日本は世界と比べてどうなのかを考え、当たり前だと思っていることが当たり前ではないこともあることに気づいてほしい。そして、アフリカなど発展途上国の貧しさばかりに注目するのではなく、これらの国が今後経済成長を遂げていくために、自分達がどう関わっていくかを自分ごととして考えさせたい。



休日の部活動の地域移行に係るモニター事業

スポーツ庁と文化庁より、部活動を持続可能なものとする、子どもたちに多様な体験機会を確保すること、働き方改革を推進し、学校教育の質を向上させることなどを目指し、部活動の地域移行についての提言がまとめられました。令和5年度から令和7年度末までに準備を進め、令和8年度には休日の部活動を地域に移行する予定となっています。本提言を受けて廿日市市教育委員会では、11月、12月の休日に、大野中学校の軟式野球部、七尾中学校の吹奏楽部に指導者を派遣し、土日の部活動の地域移行に係るモニター事業を実施しています。



生徒も指導者も最初は緊張している様子でしたが、熱心かつ丁寧な指導に徐々に緊張もほぐれていきました。戸惑いもあったと思いますが、今後モニターの結果を分析し、令和8年度に向けて、段階的に地域移行を拡大しながら目標に向けて取り組んでいきます。

キャリア教育の充実に向けて

【やりたい事、なりたい姿を明らかにさせよう！】

児童生徒一人一人の**興味・関心**や**長所、特徴**を把握することがキャリア教育のポイントの1つです。部活動や委員会活動に限らず、実は児童生徒が日常生活の中で選んでいるもの全てが、「その児童生徒の**興味・関心**」を表しています。

- ・マンガやアニメの「好きな登場人物」やゲームの種類にそれぞれの児童生徒の性格や特徴が重なっている。
- ・ファッションに興味のある子は、ファッション雑誌を読む。
- ・料理に興味のある子は、料理番組を見る。
- ・もの作りが好きな子は、プラモデルやキットを買う。
- ・国語の学習により、文学に興味をもつ。
- ・英語の学習により、外国人との交流を楽しみたくなる。
- ・実技教科の学習により、絵や音楽、体を動かすことに興味をもつ。



こうした児童生徒の「**日常選択**」を**注意深く観察**するとともに、本人が好きなマンガやゲーム、テレビ番組などを含めた情報共有をしていきましょう。**児童生徒の興味・関心を把握し、長所や特徴を理解**することは、児童生徒の将来と一緒に考えていく上でとても大切です。

小・中学校で考えた将来の夢が必ずしも実現するとは限りませんが、将来の夢が途中で変わっても、「**将来の夢を考える習慣がついている**」ことが大切です！

「学びの革新」の更なる推進

2学期は先生方が研修を受ける機会が多い時期でした。廿日市市教育委員会としても、学校へ訪問する機会が多く、今回は各校での助言を、「**学びの革新**」の推進のポイントとしてまとめました。

➤教師のファシリテート

- 児童生徒に説明させる**ことへのこだわりを
持ち続けましょう！
- 児童生徒が十分思考し表現するために、**導入の課題設定を工夫**しましょう！



探究の過程を大切に！
子ども達の多様な考えを！

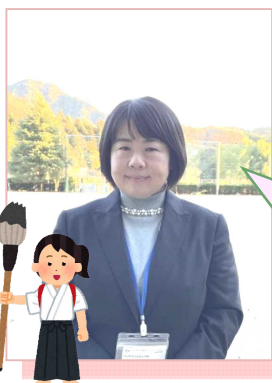
➤デジタル機器の活用

- 「**個別最適な学び**」「**協働的な学び**」の充実に向けて、**一人1台タブレット端末が文房具の一つ**となるように、普段使いをしましょう！

何を学ばせ、どのような力をつけるのかをまずは明確に！



アテンション ぶい~ず !!



今月号は、廿日市市立友和小学校で、研究主任をされている永岡美穂先生を紹介します。

好きな言葉：一期一会
好きなこと：筆で書く
友和小の自慢：前向きな先生が多い・子どもたちが素直に育っている

Q.児童のどのような姿を目指していますか？

いろんな人に出会って、いろんな経験をして、1つでも好きなことが見つけられるような小学校時代を過ごしてほしいと思っています。

お話を伺う中で、このような永岡先生の実践の後押しとなっているのが、校長先生の学びに対する情熱やエネルギーであることを強く感じました。

これからも友和小の実践に注目です！

Q.研究を進める上で意識していることは？

先生方一人一人が**日頃取り組んでいることを共有したり、広めたり**することで、学校全体の授業の質を上げていくことや、**常に新しいことに目を向け取り組む**ことを意識しています。

Q.校内研修は、どのように進めていますか？

研究授業をする先生だけが実践するのではなく、**チーム（教員全員）で実践**することです。そのことで、実践の成果を全員が実感できるようにしています。また、**ICTの活用もミニ研修を行う**などして、スキルアップを目指しています。

Q.児童や先生方に変化はありましたか？

実践を共有することで、先生方の「**やってみよう！**」という気持ちが強くなりました。

子ども達も、「**やってみよう！**」「**自分の思いを表現したい！**」という意欲が高まってきました。